

平成 30 年度第 2 回 吹田市情報化推進懇談会 議事録

- 1 開催日時：平成 31 年(2019 年)2 月 19 日 (火曜日) 19:00 から 20:40 まで
- 2 場 所：吹田市役所 高層棟 4 階 特別会議室
- 3 開催内容：「平成 30 年度 第 2 回吹田市情報化推進懇談会 次第」に基づき開催
- 4 配付資料：懇談会当日に各委員に配付
- 5 参 加 者：吹田市情報化推進懇談会委員
- 6 議 事 録：次第 2 第 4 期情報化推進計画（素案）について  
 次第 3 ディスカッション：テーマ 1 防災について、テーマ 2 情報発信アプリについて

発言者	内容
座長	<事務局より資料 1 「第 4 期情報化推進計画（素案）について」の説明>  説明が終わりました。 委員の皆様から何か御質問、感想とかがありましたらお願いします。いかがでしょうか。
副座長	アクションプランが加わったことで、随分具体的なイメージを持てるようになれたかなというふうに思いました。
座長	他にございますか。
A 委員	細かい部分になるかもわかりませんが、少しわかりにくかったところで、9 番目の情報共有、情報共有できるシステム導入について、もう少しわかりやすく御説明いただけますか。
事務局	高齢の方の生活支援を支えるための仕組みということで、介護の現場でしたら、市、介護の事業者等、市民グループの方ということで、割と身近なところになると思うんですけど、高齢者の方の見守りですとか、外出の支援ですとか、身近なことで言いますと買い物支援ですとか、様々なことの情報共有を図っていただける仕組みを作ろうじゃないかということで現場のほうで動いているものです。その辺の情報について、例えばクラウド上に一つサイトを作りまして、そこを見に行けば関係者が全部情報共有できるのではないかと、ということで現場のほうで検討を進めておりまして、今後の 5 年間で導入を図っていけないかということで、計画に加えさせていただいております。
A 委員	ありがとうございます。この共有した情報は市民ももちろん利用できるということですか。
事務局	個人情報等もありますので、全てがという形にすぐ行けるということではないかと思うんですけども、個人情報を除いた部分で近所の方ですとか御協力いただける方ってというのはかなりたくさんいるんじゃないかと思えます。どちらかというところのほうの使い方ができればいいなということで考えております。
B 委員	介護サービスということで、認知症の方の見守りのネットワーク等に活用されるということでもよろしいでしょうか。

事務局	高齢者全般の方、それから見守りが必要な方、認知症の方とかということで、すぐにと いう形にはいかないかもしれないですけど、徐々に広めていければいいなということで 考えております。
B委員	もう1点。10番の図書館資料の電子化ということで、既に大阪市さんとか堺市さん、 それから神戸市さんも電子図書の導入はされてるとお聞きしておりますので、ぜひ早い 段階で、吹田市さんも取り組まれたらなと思っております。 障害者サービスにも非常に有効だと聞いておりますので、その面でも図書の電子化を進 めていただければと思っております。
事務局	おっしゃるとおり他市では既に実施してるところがありますので、取り組めるところか ら徐々に電子化などを進めていきたいなということで考えております。
座長	ほかに何か御質問、御意見はいかがでしょうか。
C委員	最近サービスデザインという言葉がはやりなんですけど、恐らくまだ一般的になってない と思うので、初めかどこかにサービスデザインのことを書いておいたほうがバランスが 良いと思います。
事務局	私も正直この計画書を作成し始めてからようやく勉強し始めたような言葉になりますの で、わかりやすいような形で注釈をつけたいと思っております。
D委員	そうですね、前の第1回目のときに、例えばお年寄りとか、弱者の方のIoTの推進のた めに何か教育みたいなものが必要だという話は多分あったと思うんですけども、それは ここにはもう別に書かなくても大丈夫ですか。
事務局	計画のほうには直接は入れさせていただいてないんですけども、現在実施しようかとい うことで考えているのが、アクションプラン13番のところ、施設のICT環境の充実 化を図っていきたいということで申し上げたものがございます。例えば、吹田市でし たら公民館などの施設がございまして、無線LANを設置して、災害時の有効な利用をしつ つ、平時利用としてできればそのようなことに活用していけないかなということで考 えておまして、たとえば公民館で高齢者の方のIT講座などを実施していきたいとい うことで考えております。
座長	時間も進んでいますので、次第3のディスカッションに入っていきたいと思いま す。お手元のディスカッションテーマ資料をごらんください。まず本日のディスカ ッションテーマの1、防災についてということで、事務局より説明を受けま す。それではよろしく お願いします。
	<ディスカッションテーマ1：防災について～大阪府北部地震と台風21号の経験から ～について事務局から説明>
座長	ありがとうございました。説明が終わりましたので、ディスカッションに移りま す。ここからは、委員間で意見交換を行いたいと思えますが、今説明いただいたように、1 番と2番では、災害といっても、いつ来るのかわからないものとそうでないものとに分 けられます。それから、2番の台風の場合は恐らく今年もまた必ず来るけども1番のほ うは、どうかかわからない状況です。実際昨年、災害を経験されて、それぞれの委員の方 がそれぞれの災害のときに、どういう行動されていたとか、それから情報に関しまし

	<p>ても、全てを吹田市が出す必要は多分なくて、恐らくテレビとかそういったもので充分足りていた場合、全部を吹田市任せというわけではないと思いますので、吹田市にどういった情報が欲しいのかというところを御議論いただけたらと思います。台風の場合は、避難勧告が先にですね、いつ帰れるのかとかいつ解除されるのかっていうようなこともあると思いますし、私の経験でも台風の場合は、避難勧告でスマートフォンですごく大きな音で、勧告がなるんですけど、それはいいんですけど、解除されましたっていうのも夜中にすごい大きな音が鳴りましたがそれはいいんですけど、それぞれがどのような経験されて、そのときにどうあつて欲しかったなっていうようなことがございましたら、御意見いただきたいんですけど、何かございませんか。</p>
B委員	<p>1番の北部地震ですけれども、おっしゃったように通勤時間帯に私はたまたま自分の住んでいる地区の児童センターをお借りしてイベントを組んでいましたので、その中止のお知らせをまずはしないといけないということで、係りの者と手分けして、電話連絡とか、それから会場のほうに立ち会ったんですけども、それが1段落してからやはり登校時間であったので、子供たちの小学校が心配になりましたので、民生委員さん、それからの福祉委員の方と学校のほうに様子を見に伺ったんですね。そうすると、昨日もテレビに映っていますけど、今の学校で子供たちは携帯とかスマートフォンは持っていないのでね、親御さんとの連絡がとれなくて、なかなか学校さんも児童を返したいんですけども、親御さんのお迎えが、来ていただけてなくて、最後の子供さんが、保護者の方にお届けするにはお昼までかかったということがありました。結局そういう時の御家庭との連絡がなかなか難しいんだなということを実感しました。それと、社会福祉協議会として吹田市さんからお声かけいただきまして、翌日には災害ボランティアセンターを立ち上げ、おかげさまで、ボランティアセンターのほうには、2番の台風とあわせて700件のボランティアの要請がございまして、合計2,000人のボランティアの方が実は全国から来ていただくことができました。と申しますのは、吹田市さんのやはりホームページのほうに、災害ボランティアセンターの情報として、ボランティア募集というのを載せていただいたので、市民の方だけでなく、全国からボランティアの方が集まっていたので、本当に、災害ボランティアセンターを立ち上げたのは初めての経験だったのですが、比較的スムーズに案件の解消を進めることができたと思います。テレビ等の報道というのはやはりその災害の1番目につくところを報道されるので、実は北部地震のときも余り吹田市の被害のほうは、取り上げられることなく、やはり高槻や茨木がメディアに載ることの方が多く、吹田市の中で大きな被害を受けた方がおられるということを市民の中でも御存じない方がおられましたので、やはりそういうメディアだけに任せておいては逆にいけないのかなと改めて感じました。</p>
座長	<p>その情報はどうやって発信したらいいですかね。子供が携帯とか持っていないということですしねえ。最後アナログ的に頼るのも、良いかと思いますね。車で回るとか、スピーカーつけた、選挙のときの車みたいな、意外とああいうのが役に立つと思うんですけども。田舎に行きますと、田んぼとか朝8時とか12時とか、17時にチャイムが鳴ったりとか知らせるようなものも、結構災害のときに使えるのかもと思います。先ほどのお話の老人が行方不明になったとか、昨日から帰ってない、こういう格好をしている、こういう年齢の人というのもアナログでやってしまうと結構見つかったりすることが多いみたいな気もしますし、意外とアナログに頼るのは良いかもしれないですね。</p>
副座長	<p>私たちの市民公益活動センターは、地震のときは休館日にあたっていたので、通勤等に影響というのは私たちに限ったことだったんですが、吹田市以外から通っている職員の安否確認っていうのが、やはりどういうふうにするのかっていうことで、すぐには電話をつながる時もあったんですけども、基本的につながなくて、結局SNSとショートメールで確認しあうことであつたりとか、それから、市役所の担当課のほうともやはり</p>

	<p>つながらなくて、結局、職員の個人のLINEで使ってやりとりをしたとかっていうことがありますので、やはりみんなお子さんが携帯電話を持ち合わせてないのでやはりその安否確認が難しいということもありましたけれども、大人は携帯電話をほとんどの人が持っていたりもするんですが、意外と電話が繋がらなかつたりもしますので、LINEだったりとか、そういうものがあって確認がとれたということがあったなというふうに思っています。</p>
座長	<p>Facebookに投稿してる友達は結構います。地震に関して、ほかに御意見とか、あのときどうしてたとかいうことがあればお願いします。</p>
E委員	<p>地震に関してはトラウマケアの視点も情報発信に入れていただけるとありがたいなと。思いました。プッシュ型とプル型のバランスというんでしょうか。例えば市役所のページですとかすいたんのページとかいろいろ発信していただいているんですが、同じ情報が10数人くらいから回ってきて、それだけではなくて、それこそほかのいろいろなメディアの情報ですとか、お友達からの情報ですとか同じ情報がいっぱい来ると、何ていうんでしょうか不安な心が高まるっていうんですかね。余計に不安になってしまってしんどいなあと感じてしまって、SNSを私自身は少し控えるようになっています。結局、しんどくなると利用者は離れてしまいます。今はこれだけ精神疾患の方がたくさんいらっしゃる世の中ですし、そういう不安な気持ちが結局普段の安心安全の暮らしを脅かしてしまう側面もあるかと思しますので、そこをうまくプッシュ型とプル型のバランスをとっていただければありがたいなと思います。例えば情報をいろいろ更新されていくんですけど、もともとの最初の発信に編集を加えていただいて、何時何分更新しましたみたいなことを入れていただいて、ずっと同じ情報でリンクを張っていただくと、ほしい時にプルで取りに行けたり等もしますし、本当にあちこちから来ると困ってしまうというのが正直な感想です。</p>
座長	<p>情報過多っていうのと、それから、昔でいうガセネタですよ。最近でいうフェイクですよ。そもそも情報って半分以上が信じられないというのが、情報の性質なんですけれども、こういう災害時は余計に偽の情報というか、正しくない情報に惑わされるとかえって混乱しますし、整理が難しいですね。その他はどうですか。</p>
D委員	<p>災害放送っていうんですかね。あれはどれくらい有効なものかなという個人的に疑問があります。例えば、今回はそうではなかったと思うんですけども、災害が長期化したときに、例えば電気も通らないとスマホも充電できなくなって、その辺の情報が少し受けにくくなるんで、その場合はどうしたらいいのかなあみたいなことで、例えばラジオみたいなのが良いのかとか、それから、何かすごいローカルな情報ってやはりわかりにくいので、それを集める方法として、例えば天気予報だと今自分のいる地域が雨なのか曇りなのかの放送があったりとかして、それを割と信用できる情報になると思うんです。それを応用して災害にも情報にも生かせないかなということを考えました。</p>
C委員	<p>私は兵庫県に住んでるんで、よくわかりませんが、ただ、阪神淡路のときの経験から言いますね。私は芦屋に住んでいますけれども、神戸に住んでいる母親が1人で住んでいるので心配でした。それは、芦屋と神戸の関係になるんですよ。それを全部考えていったら、1,600の市町村のことを考えないといけないことになります。私の基本的な考え方といいますと、やはり災害であるときはある程度自分がしっかりしなければいけない、そういうことを市民の皆さまにいかんが普段から納得してもらっているかというその姿勢が絶対必要です。何でもかんでも行政に頼ってしまう、もちろんそれは頼るんだけどね。基本的にやはり自分でしなきゃいけないよという、それを常にアピールしてるかどうか、これが基本だと思うんですね。それから2番目に重要なことは、基本的には、</p>

	<p>危機管理の中心に、動くわけですよ。情報部門はそれを支えるインフラであるべきだと思ってるんです。これは和歌山でいろいろと私も関係してますけれども。災害のときに駄目になったときに、そのネットワークの管理をしているのは情報部門なんです。だから、それが、1本の線ではなくって、もし駄目になったら、どういう形でこれサポートできるかっていうような、インフラ部分をきっちりと提供できるそういう体制は情報部門にあると。それから、アプリについてこれがどうだとかってというのは、そこは色々な部門から恐らく色々な形をやりながら、先ほど委員が言われたように、それがダブらないようにするには、そこがしっかりした考えで動いて、そして、情報インフラがしっかりしているということ、これが1番基本じゃないのかなと私は思っています。そういう意味では、ここにおられる委員のおっしゃるような連携もとりながら、こっちが駄目ならこっちでサポートできるよという、そういうシステムをいかに体制としていって、そんな感じが私はしてます。</p>
座長	他に何かご意見はありますか。
A委員	<p>今まさにおっしゃったことに関係するんですけど、先ほどの福祉健康のところの情報共有できるシステム導入という話がありましたけれど、まさにそれが災害防災の観点でも、あったらどうかなと思っています。これは体験談になるんですが、実は台風21号の時に停電が起きて、実は我々は電気がとまるとサービスが当然提供できなくて、テレビが見れなくなったり、インターネットが使えなくなったりとか、電源が復旧しても機器をリセットしなければならぬとか、想定外のことが発生してしましまして、我々がそれを自社のホームページで、お知らせをしておったんですけど、なかなかそれだけではいき届かなくて、電話をたくさんいただいたんですね。それがもうパンクしてしまって、結局我々のテレビが見れない、インターネットが使えないという情報を発信することができなかつたんです。これは非常に会社としての反省点なんですけど、行き場を失った問い合わせが実は市役所さんにいってしまって、1日大変御迷惑をおかけしてしまいました。けれども、そのときに吹田市さんがホームページで我々のホームページの案内をしていただいて、非常にこれは助かりました。そういった部分と、逆にちょうど避難勧告が出た時に、このときは吹田市さんが情報発信をされているんですけど、我々も、その情報を吹田市さんからいただいて、我々のほうの放送メディアで吹田市さんの避難勧告が出ているということを放送させていただきました。これはお互いに補完し合えたのかなと思います。例えば鉄道各社とかですね。FMさんとか、我々、そういったところの情報の共有のシステムが地域の中でできておれば、また違ったお知らせの仕方ができるのかなと思います。広域のLアラートっていう自治体連携がありますね、あの情報共有の。これももちろんあるんですけど、これは非常に広域ですから、不必要な情報もたくさんあります。そうではなくて、吹田市さんの中だけとか、近隣だけでそういう情報共有の仕組みができれば、非常に有用なのかなと思いました。</p>
座長	産官連携ですかね。次の御意見をどうぞ。
C委員	<p>できるかどうかものすごく難しいんですが、今の話と関係するのは、ローカルな情報が欲しいんですよ。実を言うと。大まかな情報は要らないわけです。それであれば小学校単位ぐらいのキーパーソンになる人が決めてあって、そういうことが出たときには、これは今現在こうなっていますよという情報を吹田市に連絡してくれたらよい。そういう体制が先ほどの内容にも出ていましたけれども、千葉レポの発想で、各地域でそういうことの、この人が吹田市に連絡してきてくれるというようなものは作れないわけでもないだろう先ほど思いました。</p>
副座長	先ほど委員もおっしゃったように情報を待ってるだけというか、こんな情報をずっと待

	<p>ち続けるだけでなく、やはり先ほどおっしゃったような地域のというか1番身近な情報はそこに住んでおられる方が1番よくわかってたりもするので、やはり住民市民がいざ災害に遭ったときに、細やかな地域の状況みたいなものをどういうふうに集めて出していくのか、そのことをやはり、例えば行政の方とどういうふうにつなげていくのかとか、そういうのはすごくやはり大事な話かなと思いました。</p>
B委員	<p>今おっしゃった地域からの状況を市に伝えること、それから逆に吹田市からの情報をそれぞれ地域の隅々まで伝える方法、双方向が必要かなというふうに思います。実際、普段の地域活動を熱心にされているところなどでは、自治会組織でしたら連合自治会が、地域の状態を吹田市さんに届けたり、それから、民生委員さんでしたら、福祉総務課が窓口になって普段お話をされており、そちらのほうに状況を伝えたり、そして私たち社会福祉協議会では今おっしゃったまさにその小学校単位で地区福祉委員会という組織もっておりますので、地区福祉委員会から社会福祉協議会のほうに連絡があったり、それぞれのところに連絡は行ったんですけども、ただそれが一本化がなされてなかったというところが、少し課題かなというふうに感じました。そして、逆に吹田市さんからのいろんな情報、例えばもう既にITがつながっている方などは、市からのホームページ、それからツイッター等でも状況が伝えられていたんですけども、台風の時からですかね、掲示板用の紙媒体のものをホームページに吹田市さんがあげてくださったんです。公民館だとか公共施設にそれが張ってあったんですけども、地区によっては、それをプリントアウトして、例えば自治会の掲示板に張り出したりとかそういう対応をしてくださったところもありました。さきほど座長がおっしゃいましたように、どこかにアナログの方法も置いておく必要があると思います。それから、もう一点ですが、きょうの資料にも書いてくださってます。災害の時に必要な情報は届きましたかということで、「当日」、「3日後」、「1週間後」、「その後」と台風の場合は、それに加えて前日という情報のタイミングというのがあるかと思うんですけど、情報発信のほうもまさにそうかなと思います。すぐに欲しいもの、事前に分かれば欲しいもの。それから、1週間たってから欲しいもの、それぞれ情報が違うと思います。1番よかったと思うのは、自主避難に対応して、地区の公民館を避難所として開設をさせていただいて、それが、前日に、地域の方に、明日の6時から空いてますよとか、10時から空いてますよというような情報をいただきましたので、高齢者の方だとか、1人で自宅で不安な方は早目に地域の避難所に行かれてるのを見届けましたので、こういう自然にわかる物はそれこそテレビで見ていると、自治体さんによってはその避難準備勧告や準備情報が出ないと、そういう情報を出さなかった、それから避難所の開設がなかったというところもあったようですが、今回は事前に情報をくださった、そういう対応をさせていただいたということで非常に意味があったと感じております。</p>
座長	<p>その避難に関しても、私はテレビで見ただですけど、最近天気予報とかについても、すごくローカルな天気予報をかなり正確に把握できることができるようになって、それこそAIを使って今後避難が必要なのかどうかっていう判断をされて、NHKでやってきましたけど、随分早くに避難指示を出して、解除のほうも、国が出すよりも、ずっと良いタイミングで出したっていうことをNHK等で放送をしていましたが、そういうところでもITがやはり使われてると思います。でも、最後の判断はやはり人間が、するわけなんですけど、避難しなさい。帰ってよいですというところは人間がするわけなんですけども。そこは、やはりITにたよりきれないところだと思います。でも、事前にこれから未来を受けることが今のITを使うとかなり前に、正確にわかるようになっていきたいと思いますので、台風等についても避難ということに関しては、色んな大きな組織が出すよりももっとローカルな組織で早目に出せるということが良いのかなっていう、そういうところにITは使えるのかなと思います。それからこの吹田市さんの丸囲みしてあるところの情報発信手段というのは、たくさんあるんですけど、これが情報過多になるか</p>

	<p>もしれなくてひょっとすると、何か、ちょっとしたガイドラインじゃないんですけども、こういう人は、これ、みたらどうですかみたいなことについて、何かお勧めみたいなものを書いていただいた方が良くと思いました。片っ端からこれ見ていくと多分、混乱すると思いますし、見れない人も多分いると思うので、こういう人はこれをおすすめしますとか、これはこういう方法で情報が伝わりますっていうようなものを事前にいただいて、自分はこれっていうのを、選んでもらうっていうのも良いかなと思っていたんですけど。多分吹田市さんのほうも、いろんな手段で出さなければならないと思っておられると思います。けれども、先ほどご意見があったように、余りにもたくさん御意見をもらおうと、それも困るので、そこは自分で選べる、こういう人はこれを選ぶのがいいですよみたいな御説明とかが出せれば良いのかなと思うんですけど、例えば普段からもLINE使ってる人はLINEだけでいいですよと。他の見なくていいですよって言ってもらったほうが何かよっぽどすっきりするような気がします。全部見なければならないようなことをするとかえって混乱するのかなと思います。それから地震のほうはもう、今年来るかどうかわからないですけども、台風は恐らく確実に一つ以上は今年来ると思いますけれども、じゃあ実際、ここに書いていただいたように、今年来る台風に備えてどのようなことをしてほしいと思われませんか。</p>
B委員	<p>台風は唯一予想ができる災害かなというふうに思います。ですので、恐れることなく、早めの情報発信をいただけると、より被害が少なく済むのかなというふうには感じます。</p>
座長	<p>だから来るときにこうしたらいいですよっていう、どうアクションとったらいいかっていう指示も事前に出していただいたら混乱しないのかなという気はします。</p>
副座長	<p>地域では結構秋口に台風が来ることが多いので、どうしてもいろんな地域の行事であったりとか、かなり事前からつくり込んでその日を迎えるようなものが、ちょうど台風のシーズンの頃にずっと各地で目白押しで、今年もやはり、例えばこの祭りはあるのか無いのかということが本当にそれぞれに噂が飛び交っていて、近隣他市は同じような規模のものをやめたとか、じゃあどうなるのかとかという中で、そのあたりもなかなか難しいところだなと思うんですけども、住民主体であるがゆえに、安全第一なんですけれども、なかなか難しいことだなと思いました。</p>
座長	<p>できたらやりたいという気持ちはありますけど、やはりずっと失敗するにしても、判断誤って危険なほうになったら困るので、中止になったけど、いや、できたのって言われるほうがまだ良いのかなという気がしますし、その早目の判断を前日までというよりももっと早くできればもっと良いと思うんですけども、前の日に明日は中止であると言われてもそれもまた困ると思うので、それこそもう少し早目っていうのも良いかと思えます。</p>
C委員	<p>どこまでやるのかということは、行政は正しいことをいうと、こんな具合に予測するというのが、行政にとって言えるのか。こういうふうに予測すると言ったことがもし間違っていたときにそれは大変なことになるということを市民の皆さまも考えておかなきゃならない。だから、明日こういう具合になりますよということを天気予報が言ってるっていうのは良いと思いますが、明日こうなりますよということを、行政としては言えないのではないのでしょうか。それをどこまで判断するか。これは、多分言いにくいところと、言えるところ、その判断の難しさにあるんじゃないでしょうかね。</p>
副市長	<p>ここまでの点について、総括するような形で私から答えさせていただきたいなと思います。まず社協の方には、昨年は大変お世話になり、本当にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。本当に助けていただいて、という思いです。そのほか</p>

の団体の方ももちろん、助けていただきました。先ほどもジェイコムさんのほうからもありましたけど、我々の情報交換していただくこと、これは本当に感謝しております。今直近でされた質問のことについてまず答えますと、これは吹田市が判断したわけじゃなくて実行委員会が判断されたことなんですけど、吹田まつりが中止になりましたよね。その後、すごくいい天気になったということがありましたが、やはり我々が判断するにしても、どこかのタイミングで中止を決定しますというルール、これを明確に示して、その後、空振りしようとか何しようとかそれについては理解をお願いしますっていうことが一番正しい方法だと思ってるんですよ。やりたいのはやまやまなんでしょうけど、それはわかってくださいねっていうルールの明確化、これが第1で、それを周知させさせていただくということなのかなあとということで御理解をお願いをしたいなと思います。それから、幾つかいただいた意見で1番最初に社協の方から学校の話、連絡がなかなかないところは教育委員会側がイニシアチブを持ってる話なので、そういう問い合わせがあったことをお伝えをして、今総合教育会議っていう市長と教育委員会で話す場もありますので、そういう場面で取り上げることも含めて検討させていただきたいなと思います。それから今、職員の安否確認とかはメールを基本にしています。メールの発信を一斉に集約するようなシステムを導入しております、あるいは職員から画像転送されてもそれが危機管理室に届くような仕組みになってまして、身近な地域の情報で気づいた点があればすぐに画像を送るように災害発生時からそういうシステムになっています。それからツイッター等の多様な手段で送付するというところに今回は主眼を置いています。質の問題が多分あるんだろうなと思いますけど、基本がやはり大規模災害なんですよ。だから、どんな手段かでも、情報を受け取って、受け取った方が周りの人に伝えてほしいということが前提になってますので、あらゆる手段で今発信をしています。ただ今の地域防災計画を見直し、私のほうも指示をしておりますし、皆さまからの声も届いているので、そのことも踏まえてですけど、災害レベルに応じた情報発信が必要でしょうし、対応が必要となります。先ほどおっしゃっていただいたとおり、体育館に避難する前提ではなくて、台風であればまずは公民館とかに非難していただいたほうが市民の方については安心できるでしょうし、そういうやり方にかえさせていただいたということが一つ認めていただいたと思いますけど、体育館について、ここで寝泊まりしてくれと言われてたら避難やめとこうかなというような方もいらっしゃると思いますので、きめ細やかなことで、大規模災害以外の中規模災害的なほうが数は絶対多いわけですから、台風のように多いわけですから、もう少し災害レベルに応じたきめ細やかな市民視点に立った地域防災計画の見直しに着手をしているところです。それから、広報車の利用なんですけど、吹田市の場合は75%がマンション共同住宅ですので、これにはやはりいくらやっても限界は、あると思います。風向きとかの関係もあります。もっとふやしてほしいとかいろいろ声もあるんですけど、いや窓閉めて聞こえるってどんなことなのっていうのもあるのでなかなか難しいなと思うんですけど、できる限り、例えば青パトもそういう場合は広報車に利用したらどうなのとかいう声もいただいておりますので、そういうことを参考にしていきたいと思っています。それから、先ほど災害時は自分がしっかりする事とおっしゃっていただいたんですけど、まさに今地域防災計画では私が見直しの視点と上げてるのは、行政ができることの限界をしっかりと伝えましょうと言うことです。何とかしてくれると思っていただけるのはありがたいんですけど、行政ができることには限界があるので、ここから先は個人の努力等をお願いしたいということで、正直にできないことを言いたいです。こういう前提で、地域防災計画立てないと何とかしてくれるというのは非常にありがたいんですけど、根拠のない安心感っていうのは本当に災害が起こったときに、駄目なことだと思うんです。だから例えば今、災害訓練でも本来計画は個人が毛布等は持ってきてもらわないといけないということになってるんですよ。それならそういう訓練をしたらいいんじゃないのと、ふだん毛布持ってこない訓練をしているよりも、毛布と水はとりあえず持ってきてもらわなければならない前提になっているのであれば、そういう前提の訓練をしてもらって、我々のほうで用意できる量



	<p>はこれだけなんですっていうことの限界を示さないと協力を得られないよということを言っています。現実には即した計画になるように言っています。あとは災害で避難勧告というのは本市ではニュータウンの一部について出ることがあります。1番多いのは箕面との境で、国立循環器病センターの北側にあつて、吹田市側には家はないんですけど、そこで出ることが多いです。今回初めて古江台の展望台のところの崩れがあつて、私も家から400メートルぐらいの所でしたので22時ぐらいに見に行きましたけど、もうびっくりするぐらいの状況で、少し抜かっていたなというのが正直なところで、ふだんからそういう恐れはあつて、よくイエローゾーンとかレッドゾーンに指定されていたりもするんですが、吹田市の場合は、その場所は指定されていないんですけど、指定されてなくても可能性のあるところ、これは抑えとこうねということを今言っています。あとはローカルな情報というのをおっしゃっていただきましたけど、情報発信についてもやはり市民協働なんだなということを感じたというのが今回ですね。それと停電、これは1番心配しないといけないことなので、スマホの充電とかそういうことについてもきめ細やかに対応していつて安心を得てもらう、本当はラジオなんだと思いますが、ラジオを平素から聞く方って少ないと思いますし、できればラジオも用意してほしいなと思いますけど、充電とかね、そういうことにも配慮しなくてはいけない時代だなど。スマホが一つあることによってすごく安心感を得られる方が多いんだろうなと思いました。雑多ですけど、以上がこれまでいただいた意見に対する私の意見です。</p>
座長	<p>ありがとうございます。ディスカッションのテーマの1に関しましては、この辺で一旦打ち切らせていただいて、次のテーマに移らせていただきます。次の情報発信アプリについてです。事務局の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>&lt;ディスカッションテーマ2：「情報発信アプリについて ～市民に求められるアプリ～」について事務局から説明&gt;</p>
座長	<p>ありがとうございます。今説明いただきましたけれども、まずいただいた説明ですね。ところで、アプリっていうことに関して、こういうアプリが欲しいとか、こういうのあったら使うよ。というようなことがありましたら、まずは御意見いただきたいと思います。</p>
B委員	<p>ぜひこういうのがあればということで、実は吹田市は非常に他市からの転入の方も多くございまして、私どもは社会福祉協議会で地区福祉委員が子育てサロンというのを、未就学の子供さんのいる家庭の親子の方を対象に、各地区で行っているんですけども、そういった情報等を含めた子育てナビのようなもの、子育てに関係するアプリっていうのは、ぜひ欲しいなと思います。特に若い方っていうのは、既にそういうアプリに慣れ親しんでいらっしゃると思いますので、転入してきた吹田市の情報をこういったところからとっていただければと思っております。もう1点は、健都がオープンしましたので、ぜひ健康づくりのそういった機能のアプリがあれば、市民の皆さんの健康だとか、そういったことへの関心はどの年代の方も非常に高いと思いますので、ぜひ取り入れていただければと思います。</p>
副座長	<p>質問なんですけど、この吹田市ポータルアプリというのは、基本的には吹田市の行政情報のみということですか。</p>
事務局	<p>今現在ですね、まだ試験的に作ってるアプリになるんですけども、まあシティプロモーションの担当でこちらの絵に記載している内容なんですけども、ごみの情報ですとか子育ての情報ですとかイベント情報ですとか、言ってしまうと、今のところ無料で作ってるようなアプリでして、今後これをどのように展開していくのがこの方向で進めたほ</p>

	<p>うが いいのかな、そういったもっと深掘りして違った方向に進めたらいいかなということで、今私どもで検討している最中でございます、一応今回、1年間限定でAPPStore等にアップロードしたものをダウンロードしていただいて、市民の方のダウンロード状況等を見させていきたいなということであるんですけども、今回委員の皆様にもどうかなっていうところの評価を聞いてみたいなということできさせていただきます。</p>
副市長	<p>NTT西日本さんの協力を得てね、よく私もお会いをすることがありますんで、テレビのCMで、滝が流れて遠くの人と一緒に話せるとか、何かいいアイデアをいただけたらと思ってアプリを提案いただいて、今は無料提供の形ですけど、本格実施までに市民の方の反応を見てみたいと思っています。正直申し上げて、ごみの日を知らせてもらう必要があるのかなあ、ごみを出したこととも無いのかと思うことのも正直ありましたけど、おっしゃったように吹田市の市民というのは1割がたが転入転出されています。それぐらい動きが激しい市ですので、他市からこられた方がごみを出す日であるとか、避難所であるとかそういう情報っていうのは、やはり必要だろうと思います。</p>
副座長	<p>ということは、吹田市の行政の情報だけを並べるのではなくて、またその展開というのは、とりあえず実験的に始めながらアプリの需要が高ければいろんな要素を加えていくという形でしょうか。</p>
副市長	<p>まだ決めていないですけど、できればアンケートをさしていただいたりしてこういうふうにもっとやってほしいとか、そういう反応がある程度いただければ、この展開を推し進めて、よりよい内容にして推し進めていきたいなと思います。やはり政策に個別のアプリをつくると、結構お金がかかるんですよ。私が以前、こども部長をした時代にも考えたんですけど、当時提示されたのがとりあえず作成に500万で毎月50万ぐらいかかりますよっていうような話だったんで、独自開発を諦めたっていうことがあるんですけど、類似のものがかなり出回ってるので。そんなコストがかからないのかなあかと思えますから、やはりそのかかる費用も市民の負担になるのでね、それだけの有益な情報なのかどうかと。というところが問題になるんだろうなと。それで諦めて今子育てナビっていうのをつくれということで、指示をさしていただいて、「すくすく」というのを作って地図情報をせめて出すよっていうことで、食べログのようにできればやりたいけど、それに近いものと考えて欲しいということで、今はまだ大したものじゃないですけど、手がけたという経過があります。</p>
副座長	<p>情報収集自体が、例えば吹田市は私が勤めてる市民公益活動センターでは、やはり市民公益活動っていうのが、NPOボランティアグループであろうと地域コミュニティー組織であろうと活発に展開されているなというのは実感するところなんです。その中で例えば子育てであっても防災であっても、高齢者福祉であっても、いろんな例えば観光であっても、市民がみずから自分たちでこれが必要なんじゃないのということを、やはり作り出してきている活動というか、貴重な活動が本当に社会資源としてたくさんあるので、何かそういったものも提供できるような、そういう流れになればいいなという、そういう資源の活用はすごく大事で、先ほどから行政が持っていることが全てではなくて、そういう市民がみずから必要に応じて作り出しているものを、まだそれが届いてない人たちにどういうふうに届けていけるのかっていうそれにアプリというのは有効だと思うんです。そのため、その情報収集の部分は吹田市さんだけでおさめるのかそういうせつかくの市民活動というような貴重な社会資源を活用されるということ、今すぐどうということではないにしても、すごく大事な要素だなと思いました。</p>
副市長	<p>先ほども申し上げたとおり、情報の提供のあり方にも市民との協働が必要だということ、去年勉強させていただいて特に痛感しました。情報提供するからには責任が出てき</p>

D委員	<p>ますので、ある程度信頼できる団体であるとか、それにお任せをできる部分があれば広げていきたいなとそういうふうに思っています。</p> <p>アプリも少し前までかなりはやっていて、色んなところはつくってると思います。やはりその一過性の流行で、ゆるキャラみたいな感じで終わってしまったらしようがないので、一つ質問として、ウェブサイトとの違いはどう出していくのかとか、やはりたまにしか見ないアプリだとどうしても隅においやっていつどこにいったかわからなくなってしまうんですね。だから毎日見るような仕組みが必要で、例えば、見たら何かのポイントがついてきているとか、そんなものがないとやはり陳腐化していくと思います。</p>
座長	<p>何かインセンティブがあって何かやると割引があるとか、金銭的なものでなくても、バッチがつくとか階級みたいなのが上がってくるという、そういう階級が上がると先ほどの例の災害のときにも、この人はたくさん見ているんで、この人を頼れば良いっていうことで、指標にもなると思います。それから、毎回このアプリとか、このITに関して、懸案事項で出てくるのがやはりデジタルデバインドっていうことで、アプリを使える人と使えない人ということで、使える人は得するけど使えない人は損するというようなことではやはり困ると思いますので、例えば、先ほどもあったように、回りに誰か使える人がいたら、自分は使えなくてもアプリの恩恵を受けることができるとか、先ほど説明もありました道路がどこか陥没しているとか、それから外灯が切れているとか、ごみ出しにしても、ごみを出したけど回収してもらえなかったとか、ルールがまず守られなくて、そういうのも、全員がアプリを使う必要がなくて、誰かが使えれば、アプリを使ってない人も恩恵が受けられるというというようにすることが必要なのではないかなと思っています。結局作っても使わないという、やはりもったいないこととなりますし、ずっと使っていくというものです。やはり使っている人だけじゃなくて、使わない人も恩恵があるというようなものが良いと思います。それから、ゴミ出しにしても、普段行っている人はわかりますけど、例えば年末年始とか、それからゴールデンウィーク、お盆のときにイレギュラーな回収のときには何らかの警告を出すということも良いかと思えます。長く住んでいる人もよく間違えるということもありますので、みんなが使えて、使えない人も恩恵が受けられるようなものがあれば良いと思います。やはり受ける場合だけでなく、参加しているというような、自分からも何かアクションを起こせるようなアプリがやはり長く使ってもらえるのかなと思いますが、皆さまはいかがでしょう。</p>
E委員	<p>子育てのところで転入者の支援をしていただけるとすごくありがたいと思います。私どもの団体のほうでもその転入者サポート取り組みをしているんですけども、グーグルアナリティクスの機能で分析すると、全国各地からホームページ等をごらんいただいて、実際のところ、問い合わせなども海外から来たりしています。どこに住むかということの参考にしたいと言っていますし、どうしても行政ではできない限界かなと思うんですけども、口コミの情報について、はっきり顔を出して信頼できる方から知りたいというところ等もカバーする役割があるのかなとその活動をしながら感じているところなので、こういった情報について、もしアプリがあれば、吹田に住む前の段階でダウンロード等をしてご覧になる方がいるかもしれないというのは感じて、例えばアンケート取るのであれば吹田市内の方だけでなく多分外にいらっしゃる方がどういう使い方をするとか、参考にされるのかなという視点もあれば、ごみ出しについても、有料のごみ袋が無料化されていること等も、結構すぐに必要になってくる情報で、調べたりされることがありますので、1割というところだけ目を受けていただければ、そのような視点もありかと思えます。</p>
B委員	<p>先ほどITを使える環境に無い方も市民におられるという話がありましたが、そのよう</p>

副座長	<p>な方々への対応について、費用のかかることですので、すぐ実行できるかどうかは分かりませんが、例えば公民館や図書館でタブレットの設置をしているところもあると聞いたことがあります。誰が使って、それを周りの人が一緒に見ることで共有するというのもすごく有効かなと思います。貸出型や設置型のもので良いと思いますので、普段つながりの無い方がご利用いただけるような環境があれば良いと思います。</p> <p>広げていく上で、大阪府内の他市の事例で、それは特定の市町村の自治体のアプリではないんですけど、例えばLINEを、できるだけ色々な連絡というつながりづくりのために有効ということで、まずそのLINEの使い方の講座をやって、それも高齢者向けにあって、そこで一定学んだ人が今度講師という立場で自分のところの地域でLINEを教え、またそこで学んだ人が違う地域で教えるといったことが結構有効に働いてたという事例を聞いてるんですね。やはり講師となれば、しっかり自分も情報収集するし、それを教えるということでまたその方のやりがいか生きがいかそういうものにもつながったようで、だからこのアプリもできましたっただけだと、なかなか先ほどおっしゃったように使わなければどうにもならないし、使ってくださいと言っても、それだけではなかなか難しいところも、特に御高齢の方にはあったりもするかもしれないので、何かそこで丁寧に教える場があって、また、便利だなと思ったらその人を介してまた次の地域に広げていくとか、そういう方法も実際に行われているところがあったので、発言させていただきました。</p>
副市長	<p>アプリがよいのかどうか、それはあると思うんです。私が今それぞれの担当に指示をしていることは、スマホで手続きができるということですが、これがアプリという手段がよければアプリで推し進め、例えば、来年度には実現させますけど、病児病後児保育について、医師会とも協力していただいて申請書の様式の統一をした上で、一旦どっかの病院にかかってもらう必要がありますけど、その病名がはっきりした時点でその病院のところから病児病後児保育の申し込みができるというシステムを考えています。</p> <p>そうするとすることによって、明日から仕事に行けるかどうかというのが即時に判断できるんで、病児病後児のところには空き情報の提供をお願いするというので今考えています。これは事業所側の協力が必要です。一度私は介護保険のところでの仕組みを考えたいんですけど、更新をなかなかしてくれなくて、空き情報が流せないという心配があります。病児病後児保育は数に限りがありますし、市のほうで大分協力を求められる状態ですので、それをしていきますし、今3ヶ所ですが、これを6ヶ所にする計画を持っています。計画でいいますと、山田、南千里、健都のところ、来年度あるいは再来年度までに、3ヶ所は増やしていきたいと思っています。なぜかという、教育保育の無償化の対象になっていくんですね。だから、余計に利用が増えるだろうと思っていますから、それから小学1年生になっても使わせてほしいという方もいらっしゃいますから、今需要が潜在的にはあるのに、まだ数も少ないし、利用もしにくいということで、そういうことになっているのかなと思います。そういう子育てであるとか介護であるとかについて、スマホ等で、色々な手続きができるようにすれば、御本人がする場合だけでなく、家族がする場合でも手軽にできるんじゃないかというふうに考えています。今、具体的な検討しており、子育てについてはほぼ目途が立ってきている状態です。以上です。</p>
B委員	<p>非常にありがたい話で私の家族も利用したことがあるんですけど、現実として本当に困ります。明日仕事いけるかどうかが決まらない、今現在は3ヶ所で病児病後児の保育所については、それぞれのところに、個々に電話で状況を確認しないといけないということになっていますので、特にこれを御利用なさる若い世代の方は、もう既にそういったITがつながっている方がほとんどですので、これで、吹田市の取り組みがよかったという実感を持っていただければ、逆に言えば他のことにもつながっていくんじゃないか</p>

副市長	<p>などと思います。ちなみに休日保育はその対象にはならないのでしょうか。</p> <p>正直言うと、病児病後児を1ヶ所開くと、保育所3ヶ所ぐらい開くぐらいの労力が要ります。小児科医さんを獲得する必要があるんですね。これはもうかるような事業でも何でもなくて、小児科医が管理医師となっていて、500メートル以内に設置するというのが条件になっていますから、小児科医の協力が求められなければいけないものです。要は公募して、手をあげてくださいと言って、手をあげていただけるような事業ではないんですね、そもそも。増やしたいのはやまやまなのですが、意欲ある小児科医さんが手を挙げてくれるだろうという見込みがなかったら、増えないわけです。これは手前みそになりますけど、色々とアタックをして実現に持ってきて、早く5ヶ所6ヶ所に行きたいというのが、やっと花開くような状況になってきているところで、まだはっきり言えないこともありますけど、目途は立ってきています。さっきおっしゃったように、インフルエンザとかおたふくかぜで長期間休まないといけなくて、休んだら仕事が続けられないような方、これは無くしていきたいと思っています。</p>
A委員	<p>なかなかこれだというのは見つけにくいと思うんですけど、やはりニーズを調べていくしかないんでしょうね。その中で、アプリと言っても星の数ほどあるんで、例えば高槻市さんのウォーキングアプリも面白いと思うんですけど。やはり少し違うのかなという気はします。本当に市民が求めるものを、面白さとか何かアイデアとかっていうよりも、やはりこう求められるものを追求して、そこに絞り込んでいく、何でもかんでもではなくて、そのアンケートをとられるという話ですけど、地道にやられるしかないのかなというふうに思っています。</p>
座長	<p>あったほうがよいというよりはなかったら困るというものですよね。</p>
C委員	<p>言うのは控えていたんですが、実を言うと、私はSNSを使っていません。まだガラケーを使っています。それはSNSの限界というか、マイナス面がある意味で大きいと思います。それでもガラケーで充分いけると基本的には考えています。まちカメくんのことで少し申し上げますと、これは昔から、豊中市さんは一生懸命やっておられました、ホームページを使ってね。その中でこれはいけるということと、それから千葉レポとの関係でこれをおやりになったと思っています。今委員がおっしゃったように、何か行っている中で、これがよいなとヒットするものも一つの候補だなど考える程度が私の限界でございます。</p>
副座長	<p>この仕組みというのはアメリカとかでも結構あるんですけど、なかなか難しいなと思うのは、ここが壊れているとか、地域住民がやはり1番そこを直してほしいと願うわけですが、でも恐らくそういうものは、吹田市内にいっぱいあって、その後がなかなか大変だろうなと思うんです。優先順位も含めて、みんなやはり自分のところを1番にしてほしいと思いますが、それは当然人間であれば思うと思うんですが、そのあたりの後の行政とのコミュニケーションの取り方というところもセットで上げたけど、結局いつまでたっても何もしてくれないみたいな状況をかえって生み出さないような、後の仕組みみたいなものもセットで考えることが必要であると感じます。</p>
座長	<p>ありがとうございました。まだまだ議論があると思いますが、時間の関係もありまして、既に15分を過ぎておりますので、ディスカッションについてこのあたりで終えさせていただきます。</p>